

伊達 139

発行日 令和3年7月20日

発行者 伊達地区小学校長会
会長 高野孝男

編集 同 広報部

《 巻 頭 言 》



令和の「日本型学校教育」の実現に向けた校長の役割

伊達地区小学校長会長
高野孝男
(桑折町立釀芳小学校長)

◇ はじめに

令和3年度も、「新型コロナウイルス対応」が続き、予測困難な時代の中での学校経営が続いている。さらにはGIGAスクール構想の早期実現により、「Society 5.0時代」が本格的に到来し、デジタル化・オンライン化など社会の在り方が劇的に変化している。現在「働き方改革の推進」「新学習指導要領の着実な実施」「令和の日本型学校教育」の実現と新たな学校創造が求められ、校長として今、果たすべき役割を考えてみたい。

1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に捉えた授業改善

昨年度と異なる点は、臨時休校の措置を執らずに新型コロナウイルス感染症対応に努めながら「with コロナ」の発想で教育活動を展開していることである。さらには、ICTの環境整備が大幅に進み、一人一台の端末が整備されたことで、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない個別最適な学びや創造性を育む学びを保障することができ、特別な支援が必要な子供たちの可能性も大きく広げる学習環境にある。そこで、新学習指導要領で求める「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に捉えた授業改善を図ることが重要であると考え。そのためには、これまでの授業にICTを効果的に活用し子供たちの学びを一層充実させる必要がある。

2 ICTを校長自ら積極的に活用、発信

地区小中学校長協議会第4回事務局会をオンライン（GoogleClassroom）で実施した。「スプレッ

ドシート」「Meet」「Zoom」の機能を当たり前のように活用している校長先生方もおられる。オンラインのよさは、「勤務場所を離れないため不測の事態にも対応できる、移動時間を省ける、集中して話が聞ける」など、課題は「資料の事前準備、ICTの専門的な知識の必要性、共有に時間がかかる」などがあげられる。ICT環境整備面で課題の残るところも見られるが、校長自らがICTを積極的に体験、活用し、その成果や課題を周囲に発信して、教職員と共に諸課題に取り組んでいくことが最重要であると考え。

3 子供に慣れさせ、「子供の姿や結果」で

電子黒板や大型スクリーンを活用した授業、子供たちの机の上に端末が載っている授業が当たり前になっている。端末の活用により、その場で検索したり、考えを発信・共有したりすることができ、学びの質も高まり、表現力、対話力などを充実させることが期待できる。授業の中で「使う、使わない」の二項対立の教育方法ではなくハイブリッド思考で、子供にICTの使い方に慣れさせ、いつでも使える意識を持たせることでその成果が「子供の姿や結果」として現れ、「令和の日本型学校教育」の目指す姿になると確信したい。

◇ 終わりに

どの校長先生方も一歩先のアフターコロナを見込み、自校の教育課題の解決に向け、スピード感を持ち全力で対応していることと思う。だからこそ、教職員、児童、保護者、地域をつなぐ「伴走者」として、共に前進できる学校経営を行うことが、今果たすべき校長の役割であると考え。

《 提 言 》

安心して子どもを育てられる環境づくり
『伊達市版ネウボラ』

伊達市教育委員会教育長 菅 野 善 昌

少子高齢化の進行に伴い、伊達市においても児童生徒数の減少や学校の小規模化が進んでおり、学校運営や教育活動に様々な影響を及ぼしています。特に小規模校においては、学習や集団活動における制約も多く、その解消を図るために学校の適正規模・適正配置事業を進めているところです。

また、子どもたちの健やかでたくましい育ちを願う一方で、家庭環境や価値観の複雑化・多様化の中で、子育てに悩みや不安を抱く保護者などの現状も浮き彫りになってきています。この現状に対応するために、本市では「伊達市版ネウボラ事業」を推進しています。

「ネウボラ」とは、フィンランド語で「相談の場」という意味で、妊娠や出産、子育ての支援をするために自治体が設置した拠点のことです。本市では、これまで子育てアプリを使った情報発信や相談業務などを行ってきましたが、「全ての親子ではなく、相談を受けた子」などへの一方的な支援になっていたのが現状でした。対応の窓口も、母子保健は健康福祉部、子育て支援はこども部というように異なった部署が担当していました。しかし、すべての妊産婦、子育て期の家族にワンストップで切れ目のないサポートを提供するために、本年度の組織改革によって教育委員会こども部に「ネウボラ推進課」を新設しました。

具体的には、子供が就学するまでの間に継続してサポートできるよう担当制を導入し、不安なことがあればいつでも相談できる環境を整えています。出産前には、家庭を訪問し、子育てに役立つ育児パッケージを贈っています。

また、母親とともに出産の準備を進め、出産後は退院翌日から自宅に訪問し、母親の不安解消に向けた産後ケアや乳幼児健診などの支援にもあたっています。さらに、この取り組みは、妊婦だけではなく、夫やパートナー、当該子に兄弟・姉妹がいれば、その子どもに対しても健康診査を行うなど、日ごろの生活習慣上の不安などを聞き取

り、適宜アドバイスを行って、家族の養育力を高めるための支援も行っています。まさにワンストップで頼りになる親戚のような近さで、担当保健師が家族の心身の健康を支えています。

本年度からは、ネウボラ推進課の新設によって、就学前までだった連携の範囲が義務教育終了までに拡充されました。この伊達市版ネウボラ事業を核にした母子保健システムの導入は、現在、社会的に深刻になりつつある児童虐待の防止にもつながると考えています。その理由は、何といても「課題を早く見つけることができる」ところにあります。また、ワンストップの支援により、母親の育児負担が軽減されるとともに父性が育まれることによって父親からの虐待も減ると考えています。このように夫婦の足並みがそろうことで良好な育児環境が整うことにもつながります。また、ネウボラでは、子育ての仲間づくりにも力を入れており、その面からも母親や夫婦の孤立を避けることができます。

この事業は、子どもの生育期の様々な課題への予防的対応として大きな意義があります。今後は、保健・福祉・教育の各部門がさらに連携を深め、安心して子どもを育てられる環境を整え、子どもの成長にとって好循環を生み出すしくみとして充実させていきたいと思っています。



《新会員より》

十年ぶりの伊達、二十年ぶりの梁川

伊達市立梁川小学校長 平久井 淳

「先生、覚えてますか？」登校指導をしていると、児童と一緒に学校にやってきた保護者に声をかけられた。「Yさんだよね！」二十数年ぶりに再会した当時の白根小学校の卒業生だ。十年ぶりの伊達地区勤務が決まった時に楽しみにしていたことが早速起きた。この十年の間＝東日本大震災後、社会は急速に変化した。少子化に伴う学校統合は本校だけでない。GIGAスクール構想もコロナ禍で一気に進み、一人1台のタブレットが配置された。私にとって将来の変化を予測することは困難になるばかりだが、子どもたちには、自ら

の人生をどのように拓いていくかが求められている。今改めて学校の意義が問われている。担任をしていた時、決してうまくいったことばかりではなかった。むしろ失敗だらけで子どもたちに嫌な思いをさせたことがたくさんあっただろう。罪滅ぼしではないが、これからの時代に求められる学校の姿を職員と一丸になって考え、実践したい。統合5年目を迎え、統合前の小学校に入学した児童が6年生だけとなった今年度、始業式で「統合梁小ファーストステージのまとめの年にしよう。」と伝えた。ご指導、よろしくお願いいたします。

地域と共にある教育を

伊達市立上保原小学校長 伊藤 栄

4月に着任してすぐ、校舎内を巡回していた時のことです。ふと、窓の外を見ると青空の下、半田山の稜線がきれいに見え、手前に視線を落とすと色鮮やかなピンクの桃の花が一面に広がっている光景に感動したことを覚えています。

その後、新学期がスタートし、子どもたちが登校し始めて一週間が過ぎた頃、近所の方から山羊の赤ちゃんが産まれたという情報が入り、数日後2年生が見学させてもらうことになりました。学校のすぐ近くでこのような体験ができることに驚きました。

このような感動と驚きで新任地でのスタートが切られたわけですが、それから時間が経つにつれこの地域には教育素材としての「ひと・もの・こと」がとても充実していることを感じています。

学習指導要領が新しくなり、「社会に開かれた教育課程」の実現が重視されていますが、校長として地域と連携し、充実した地域素材を生かす学校経営がこの地に赴任した私に求められていると感じています。校長会の皆様方にご指導いただきながら努力して参りたいと思いますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

「紅谷峠の千本桜」と「柱沢プライド」

伊達市立柱沢小学校長 長澤 昭 仁

柱沢小学校へ着任した令和3年4月1日、本校北側斜面に植えられた600本の桜は、例年より一足早い満開の姿で、私たち3名の異動職員を迎えてくれました。その様は、伊達市や柱沢地区の名所と言わんばかりに、まさに“咲き誇って”いました。また、本校児童37名の中には、自身の誕生を祝って植えられた桜の里親になっている子もあり、柱沢のこの桜は少なからず本校児童の“誇り”となっていることは間違いないようです。このように、本校を語る場合、この紅谷峠の千本桜を外すことはできません。

さて、松田聖子のリターンリスナーである私は

始業式や入学式で「千本桜」とリンクした1曲「チェリーブラッサム」をモチーフに「柱沢プライドを持て」という話をしました。「紅谷峠の千本桜」を作り上げた柱沢地区、そしてそこに建つ柱沢小の一員であることに誇りを持ち、この桜に負けない花を咲かせてほしい、いや、もう一歩先に進んで立派な実を付けてほしいといった内容です。

職員の心に光を灯し、豊かな心身で児童の前に立ってもらい、目指す子ども像に近づけられるよう、校長1年目の学校経営を進めてまいります。

《新会員より》

「なぜなら・・・」

伊達市立石田小学校長 本田 一意

これまで自分がしてきた判断をふり返ってみますと、筋道立てて整然と思考してきたというよりは、自分に都合よく判断してきたところがありました。また「最終判断を下すのは自分ではない」という甘えもありました。この4月からそうは行きませんでした。校長として求められる判断の多さ、そしてその重さを痛感しました。より慎重に判断しようと思えば思うほど時期はずれ込み、対応も後手に回ってしまいます。そのような折に頂いたのが校長会としての方針でした。とても参考になりました。とても心強く感じました。明確な

方針、確固たる信念、児童生徒や保護者への細やかな心配り。私の不安や疑問が一気に解決されました。各種研究会の運営方針や校長研修会での情報交換などで、なぜそのようにお考えになったのかを伺えば伺うほど、これまでの私にはない思考・判断のプロセスが見えてきました。以前お仕えた校長先生から、「校長職は孤独なものなんだよ」と伺いました。確かにそう思います。しかし今の私には「伊達是一つ」ということばが響いています。しっかり学んで参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

「睦み合い」の心で

桑折町立睦合小学校長 岩井 智哉

教諭、教頭としてお世話になりました伊達地区に3年ぶりに戻ってまいりました。

さて、本校の校名の由来にもなっております、「睦み合い」の心を、我が校の子どもたちに育成したいと年度当初の職員会議で話をしました。「末永く睦み合う里」というご先祖様の地域や学校への思いがそのまま校名となり、とても素晴らしい校名であるとともに、歴史と故郷への誇りを感じます。

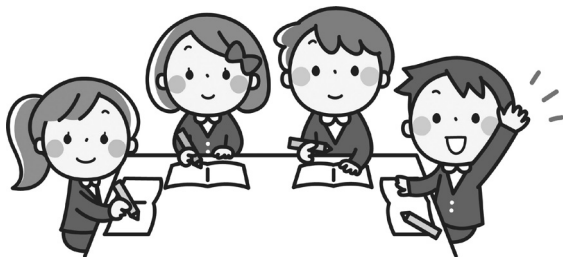
ところで、常に「睦み合い」であるのは大変よいことですが、子どもたちも、我々、教職員も馴れ合いの、いつも仲良しな関係だけでは、お互い

に成長できません。

日々、お互いに意見をぶつけ合ったり、指導したり、指導されたり、教え合ったりしながら、成長していくものと考えます。

私自身も自らが成長していくために、諸先輩の校長先生方からの忌憚のないご意見、ご指導を多くいただきたいと存じます。

諸先輩方からのご助言をたまわりながら、少しでも新米校長として、一人の人間として成長できるように、一步一步精進してまいりたいと存じます。どうぞご指導よろしくお願いいたします。



編集後記

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大について、ニュース報道が絶えることがありません。ワクチン接種も進み、一日も早い終息が望まれるところです。こうした中、新しく5名の会員をお迎えし、令和3年度伊達地区小学校長会がスタートしました。「伊達是一つ」のもと、一致団結した校長会としてこの難局を乗り越えていきたいと思っています。ご多用の中、玉稿を賜りました伊達市教育委員会教育長様はじめ、地区小学校長会長様、諸校長先生方に心より御礼申し上げます。ここに139号をお届けします。